

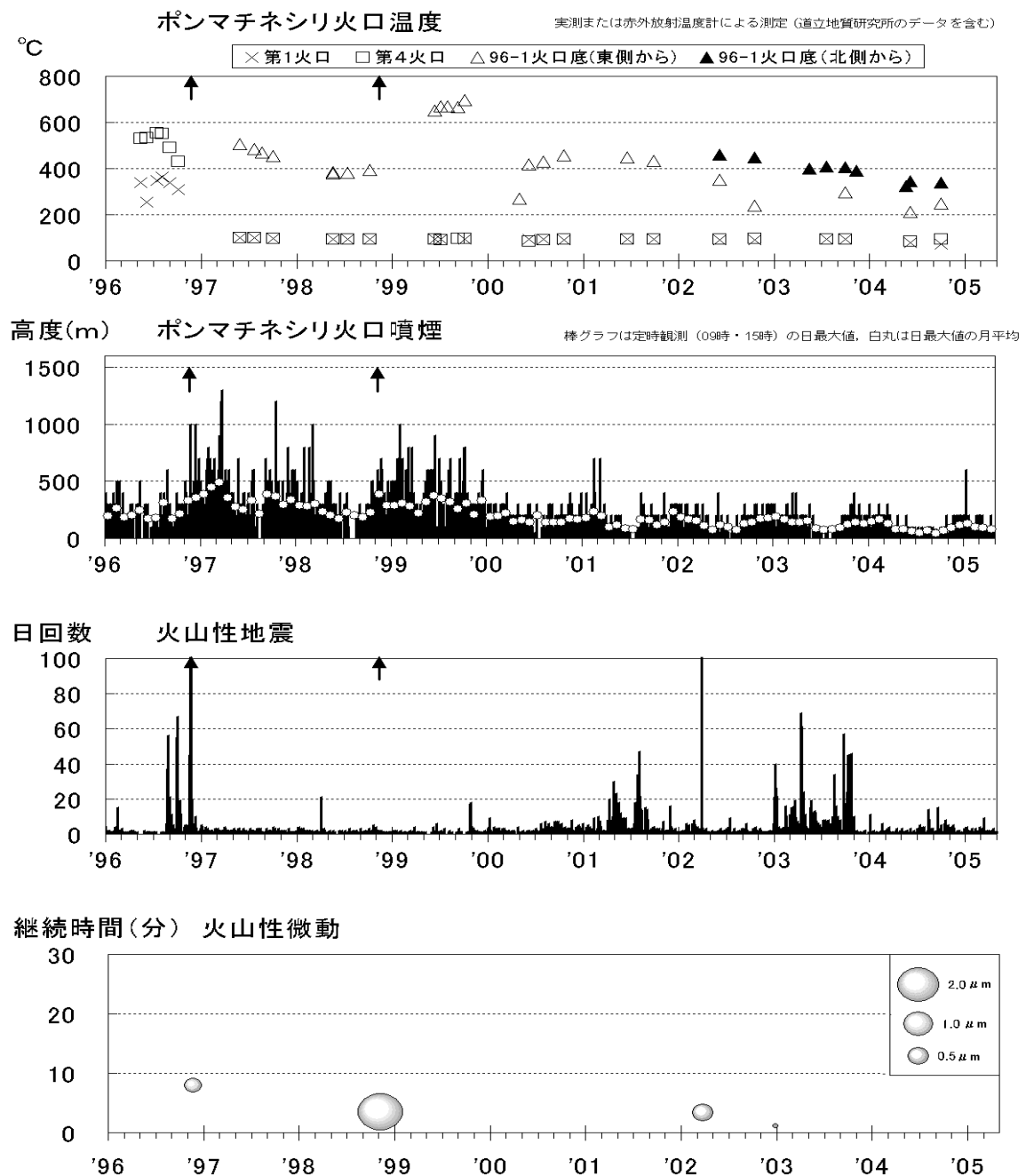
雌阿寒岳

1 概況

ポンマチネシリ 96-1 火口は高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



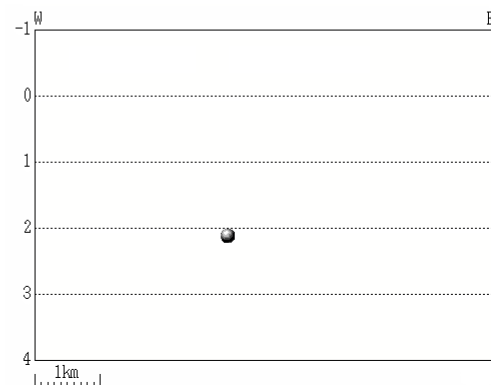
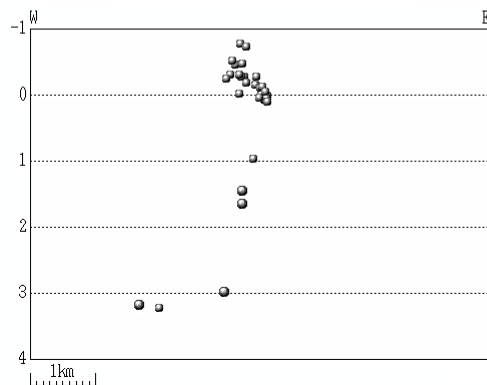
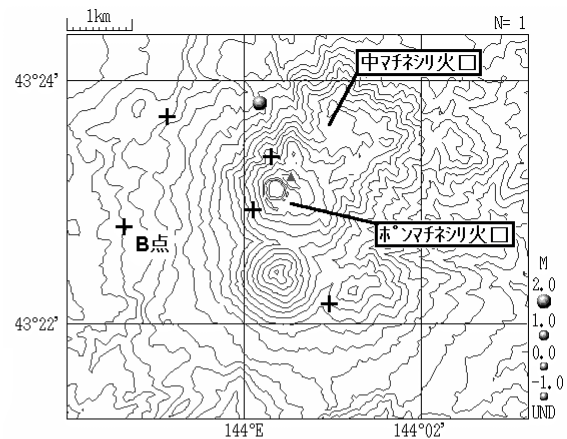
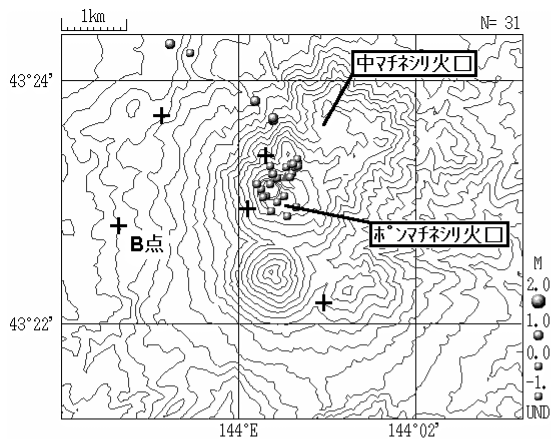
最近の火山活動経過図（1996 年 1 月 1 日～2005 年 4 月 30 日） ↑印は噴火

3 地震および微動の発生状況

ポンマチネシリ火口を震源とする地震は 1 日あたり 0～3 回と少なく、静穏に経過しました。
火山性微動は 2003 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（B 点）

2004～2005 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数	16	17	33	52	42	40	28	9	26	19	32	20
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

右図は今期間（2005 年 4 月 1 日～30 日）に求まった震源を示しています。

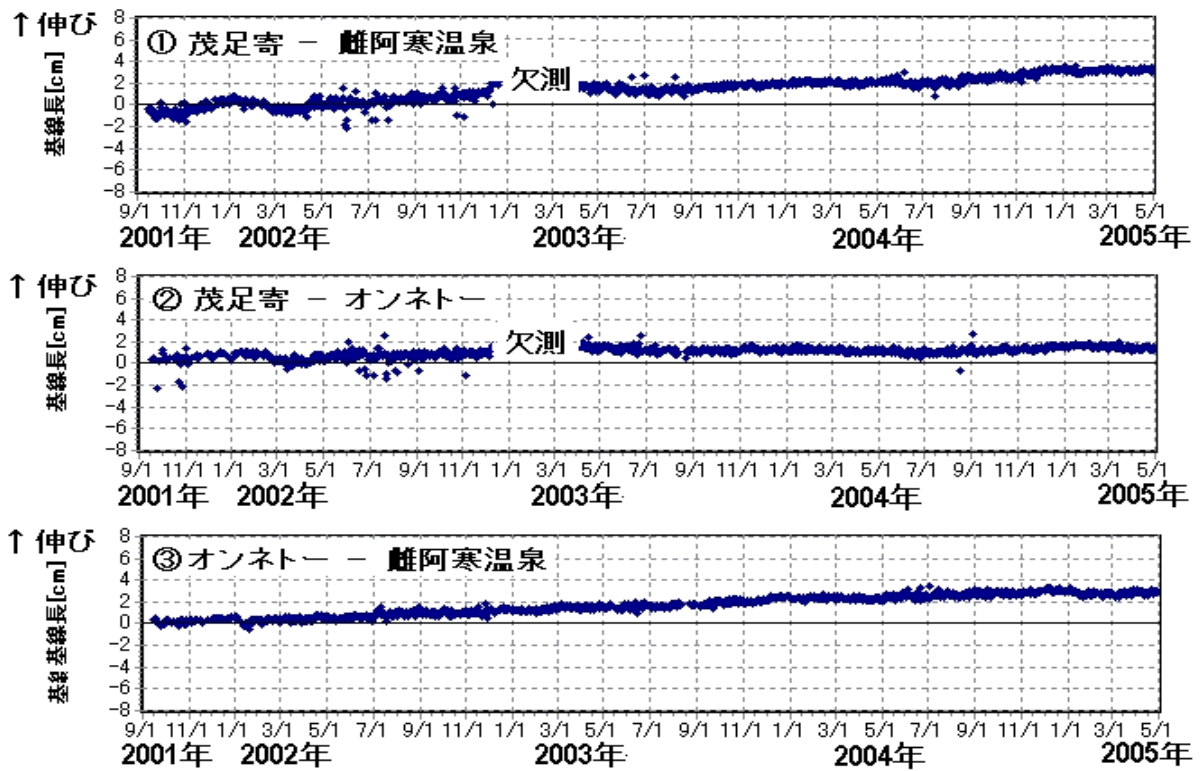
左図は前期間までの約 6 ヶ月間（2004 年 10 月 5 日～2005 年 3 月 31 日）に求まった震源を示しています。

震源はポンマチネシリ火口全体の海面付近に分布しています。このほか北西麓のやや深いところ（海面下約 3km）にも分布が見られます。

今期間、雌阿寒岳で発生した地震の多くはポンマチネシリ火口浅部で発生したと推定されますが、これらの震源は南岳地震計障害（2005 年 3 月 25 日以降）のため求まっていません。

4 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、わずかな伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



基線長変化（2001年9月19日～2005年4月30日）

